

感染症発生動向調査 週間コメント

【疾病別 推移グラフ】

237636

第09週 (H30.2.26～H30.3.4)

■今週のトピックス

▽ 今週(2018年第9週:2/26-3/4)はインフルエンザが6週連続で減少し、定点当たり13まで低下しましたが、基幹定点から重症例の報告が続きます。キットではA+よりB+が多い。感染性胃腸炎ではロタウイルスもノロウイルスもあり、ロタウイルスが増加しています。RSウイルス感染症の報告が続きます。

病 名	報告数	前週比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	2699	67%	福岡1428、北九州590	13.63	22.64
RSウイルス感染症	100	91%	福岡69、北九州16	0.83	0.36
咽頭結膜熱	52	100%	福岡24、筑後15	0.43	0.28
A群溶連菌咽頭炎	465	98%	福岡325、北九州87	3.88	2.65
感染性胃腸炎	926	112%	福岡472、北九州247	7.72	4.81
水 痘	35	117%	福岡26、北九州6	0.29	0.21
手足口病	36	116%	福岡18、筑豊9	0.30	0.11
伝染性紅斑	6	+4	福岡3、北九州2	0.05	0.06
突発性発しん	68	106%	福岡38、北九州17	0.57	0.32
百日咳	3	+2	福岡3	0.03	
風しん	0	±0		0.00	
ヘルパンギーナ	2	-1	福岡2	0.02	0.01
麻疹	0	±0		0.00	
流行性耳下腺炎	21	±0	北九州13、福岡6	0.18	0.15
川崎病(MCLS)	3	-2	福岡2、筑豊1	0.03	
マイコプラズマ肺炎	8	-1	筑後4、北九州3	0.07	0.13
クラミジア肺炎	0	±0		0.00	0.00
細菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.02
無菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.02
急性脳炎	0	-2		0.00	
急性出血性結膜炎	0	±0		0.00	0.01
流行性角結膜炎	27	+9	北九州15、筑後8	1.04	0.60
性器クラミジア感染症	15	-4	福岡9、筑豊3	0.41	
性器ヘルペス	4	-6	福岡2、筑豊1	0.11	
尖圭コンジローマ	2	-2	福岡2	0.05	
淋菌感染症	6	-3	福岡5、筑豊1	0.16	
梅 毒	0	±0		0.00	

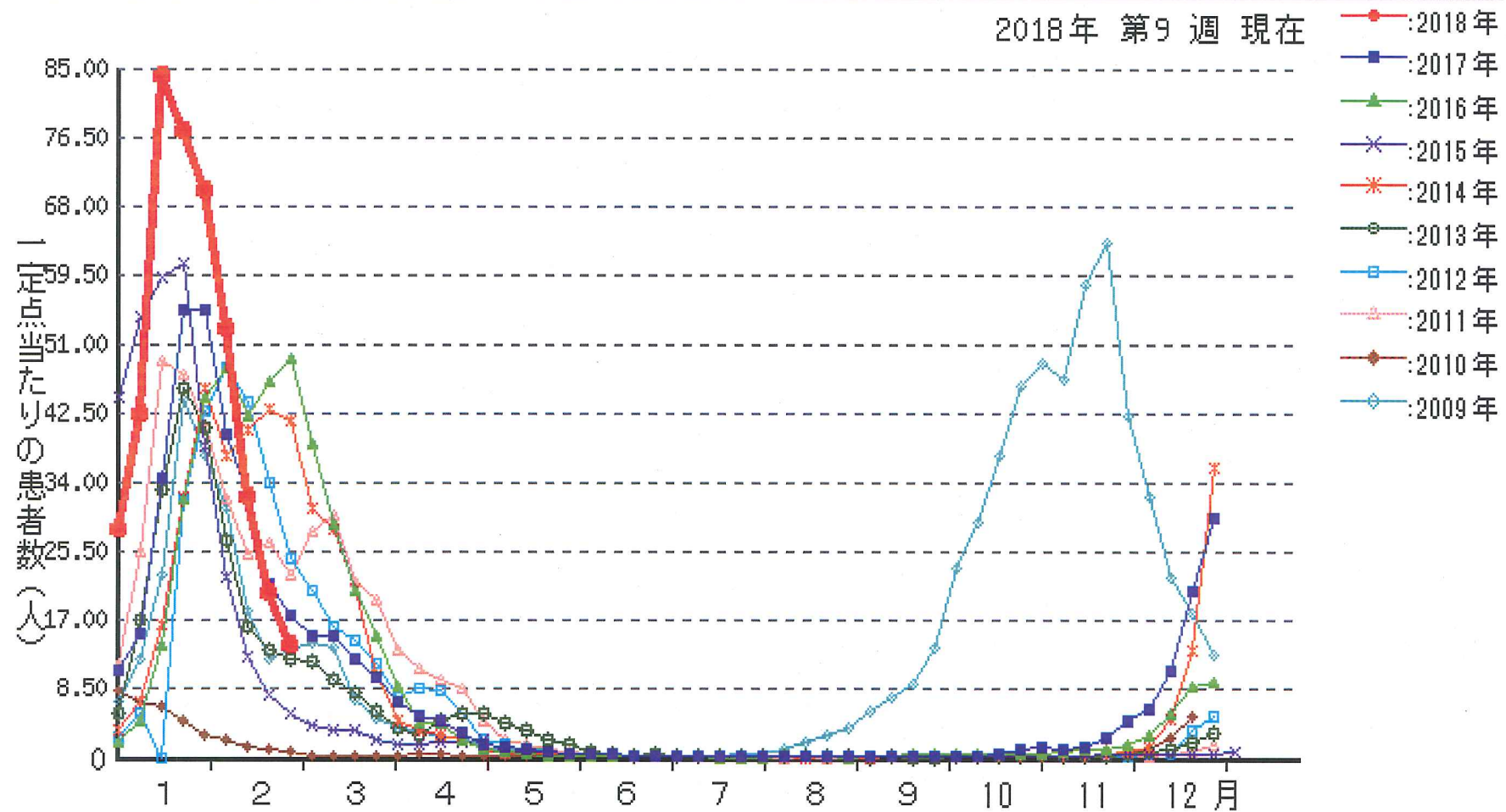
全国情報は平成30年8週分です。全国情報ではマイコプラズマ肺炎61、クラミジア肺炎2例。

平成30年第8週までの累計は、急性灰白髄炎0、結核2777(県内96)、コレラ2、細菌性赤痢32(県内0)、腸管出血性大腸菌感染症80(今週9、県内今週0、計4)、腸チフス10(県内1)、パラチフス3、E型肝炎42、A型肝炎65(今週13、県内1)、オウム病0、ジカウイルス感染症0、SFTS(県内0)、チクングニア熱0、つつが虫病37、デング熱13(県内0)、日本紅斑熱0、日本脳炎0(県内0)、マラリア6(県内0)、レジオネラ症159、アメーバ赤痢106、ウイルス性肝炎24(県内0)、急性脳炎183(県内9)、クロイツフェルト・ヤコブ病27、劇症型溶レン菌感染症137(県内6)、後天性免疫不全症候群170(県内7)、侵襲性インフルエンザ菌感染症70(県内2)、侵襲性髄膜炎菌感染症6、侵襲性肺炎球菌感染症676(県内27)、水痘(入院)50(県内3)、先天性風しん症候群0、梅毒768(県内20)、風しん4(今週0、県内0)、麻疹3(今週1、県内0)例。1類感染症の報告はない。

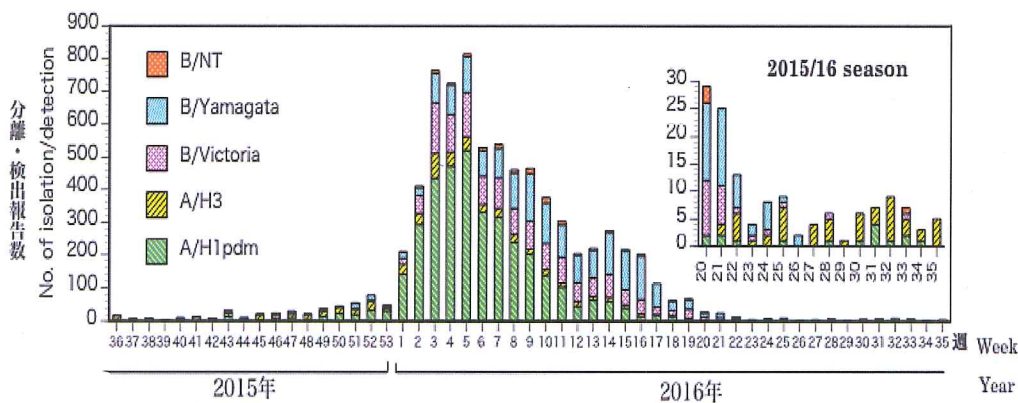
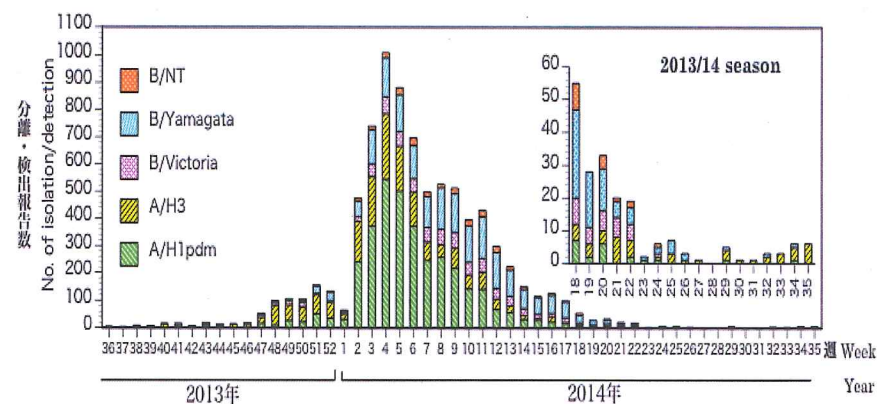
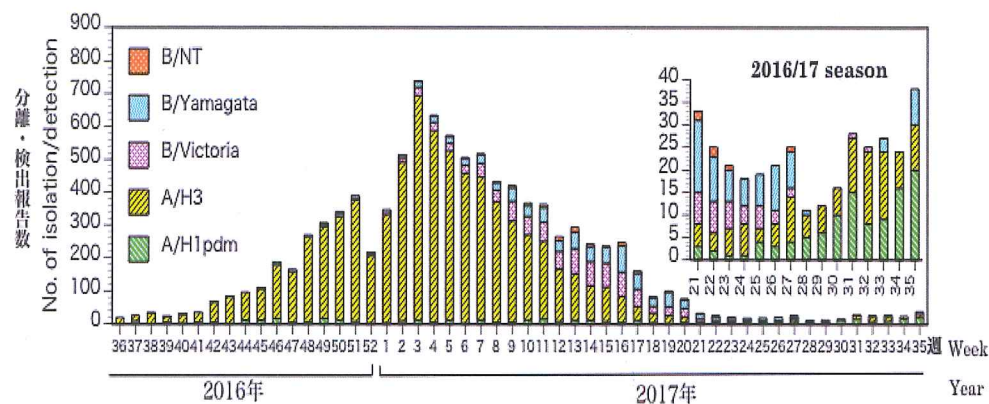
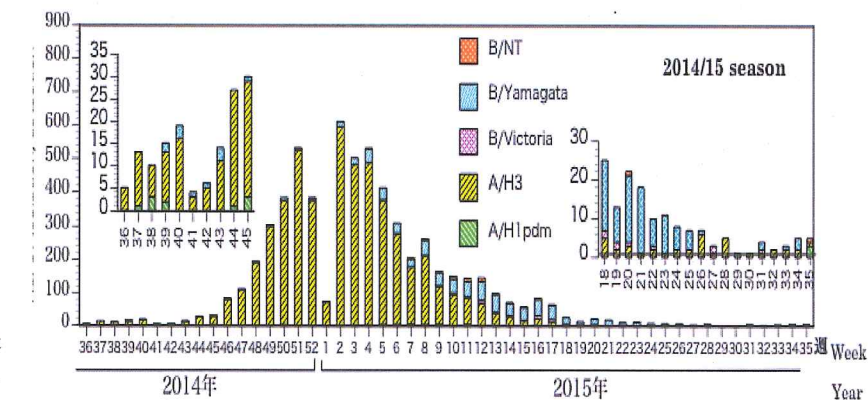
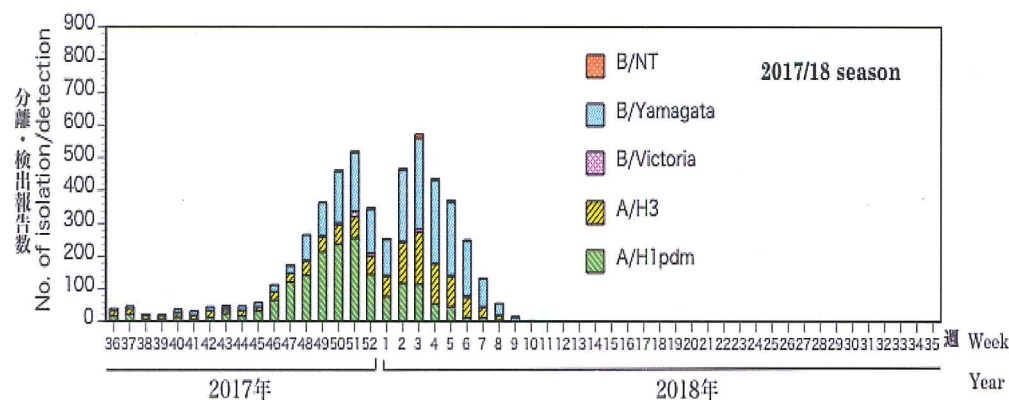
インフルエンザ発生状況(福岡) (第9週 H30.2.26~H30.3.4)

■インフルエンザ（福岡県全域）

2018年 第9 週 現在



週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2013/14～2017/18シーズン（病原微生物検出情報：2018年3月8日現在報告数）



【国立感染症研究所ホームページより】

過去11シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数が基準値をこえた週・基準値を下回る前の週

福岡	2006-2007	2007-2008	2008-2009	2009-2010	2010-2011	2011-2012	2012-2013	2013-2014	2014-2015	2015-2016	2016-2017	2017-2018
流行開始(1.0)	3	51	50	33	50	52	50	51	49	1	46	44
注意報(10.0)	6	4	2	40	1	3	2	3	51	3	1	50
警報(30.0)	8		4	42	3	4	3	4	52	4	3	2
最大値(週)	60.03(11)	20.35(8)	44.28(4)	63.62(48)	48.97(3)	48.03(6)	45.84(4)	45.57(5)	60.72(4)	49.16(9)	55.10(4)	83.99(3)
30を越した週数	5		3	9	9	5	3	7	6	7	5	6
30	12		6	50	11	8	5	10	5	10	7	7
10	14	11	12	53	15	13	10	13	7	13	12	
1	18	16	19	8	20	19	22	18	18	18	20	
全国	2006-2007	2007-2008	2008-2009	2009-2010	2010-2011	2011-2012	2012-2013	2013-2014	2014-2015	2015-2016	2016-2017	2017-2018
流行開始(1.0)	3	47	49	33	50	49	50	51	48	1	48	47
注意報(10.0)	7	4	2	41	2	3	2	3	51	3	1	51
警報(30.0)	11		4	44	4	4	4	5	2	6	4	3
最大値(週)	32.95(11)	17.7(5)	37.48(4)	39.66(48)	31.88(4)	42.62(5)	36.44(4)	34.44(5)	39.42(4)	39.97(6)	39.41(4)	54.33(6)

なまえ
ランドセルに名前を・・・
ぼしけんこうてちょう
母子健康手帳にワクチンを



しょうがっこうにゆうがくじゅんび

小学校入学準備に

2回目の麻疹・風疹ワクチンを！

2006年4月1日以降、定期の予防接種としては麻疹・風疹混合生ワクチン(measles-rubella:MRワクチン)の接種が開始となり、同年6月2日から右記の年齢での2回接種となりました。



第1期、第2期を過ぎてしまうと定期の予防接種として受けられなくなってしまう。

小学校の入学前に接種がすすんでいるかどうかを確認しましょう。

第2期でまだ麻疹と風疹の予防接種をそれぞれ2回づつ受けていないお子さまはかかりつけ医とよく相談し、ぜひとも**2018年3月31日までに受けましょう。**
接種医療機関に関しては、お住まいの市町村(特別区)にお尋ねください。

対象者 第1期 1歳児

第2期 5～7歳未満で小学校就学前の1年間(就学前年度4/1～3/31)の者

接種方法 麻疹および風疹の予防接種は以下の方法による2回接種

ワクチン	出生時	6カ月	12カ月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
麻疹・風疹混合(MR)			第1期			4/2生まれ			第2期		
			1回			8/1生まれ			1回		
MR ワクチンを 受けない場合*						12/1生まれ					
麻疹(はしか)						4/1生まれ					
風疹											

*同じ「期」内で麻疹ワクチンまたは風疹ワクチンのいずれか一方を受けたお子様あるいは麻疹ワクチンと風疹ワクチンをそれぞれ別々に接種することを希望するお子様。

高齢者を対象にした 肺炎球菌ワクチンの 接種費用の一部を公費で負担する 定期接種を開始!

肺炎球菌とは

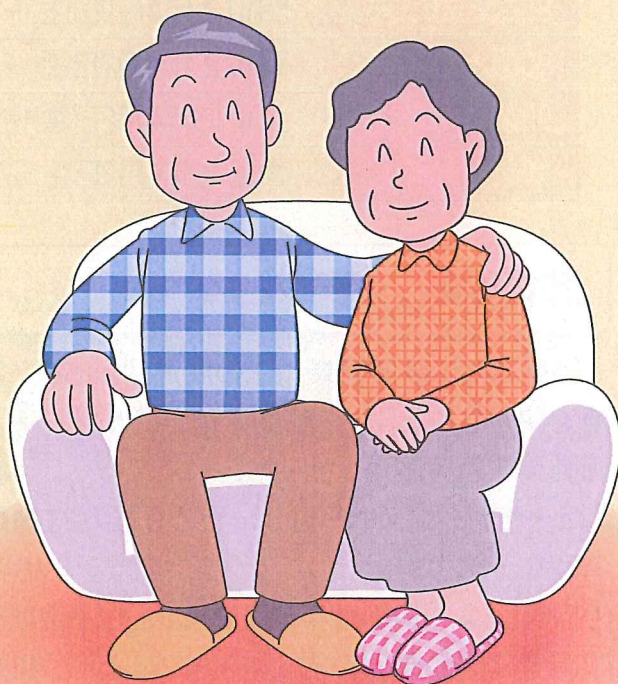
肺炎球菌は主に気道の分泌物に含まれる細菌で、唾液などを通じて飛沫感染し、気管支炎や肺炎、敗血症などの重い合併症を引き起こすことがあります。

肺炎はわが国の死亡原因の第3位となっています。また、日常的に生じる成人の肺炎のうち1/4～1/3は肺炎球菌が原因と考えられています。

平成26年10月1日から 定期接種になりました

平成26年10月1日から平成31年3月31日までの間に、主に65歳以上で裏面の生年月日に該当する方は、肺炎球菌ワクチンの定期接種を1回受けることができます。定期接種の対象となる方は毎年異なるため、この機会を逃さないようにご注意ください。

くわしくは裏面をご覧ください。



詳細については、
お住まいの市区町村に
お問い合わせください。

医療機関名